

ガラスをより美しく加工する

さかもと がら す こうぎょうかぶしがいいしゃ
坂本硝子工業 株式会社

〒482-0016 岩倉市野寄町高島19-1
TEL : 0587-66-7811

■会社概要

1921(大正10)年に名古屋市で創業したガラス加工会社です。創業当時、名古屋は時計の一大産地で時計の部品を作る工場がたくさんありました。その中で掛け時計用のガラス加工を担当し、ピーク時は月間16万枚の掛け時計用のガラスを生産していました。

1966(昭和41)年に岩倉市に工場を新設し、現在は、ガラス食器などの2次加工や、ガラス製のトロフィー、置物などの加工をしています。



自社で新しいガラス加工手法や加工道具を創り出したり、海外から新しい技術や機械を導入するなど、業界で知らない人はいないガラス加工会社が岩倉市にあります。

ガラスをより美しく加工する職人の世界

ガラスの2次加工方法は主に5種類あります。板ガラスを切断したりする板ガラス加工、それから表面に研磨材を吹き付けてすりガラスにするサンドブラスト加工、転写紙を貼って絵柄を焼き付ける焼付加工、ガラスに薄い透明金属膜をコーティングして焼き付けるラスター加工、ガラスの中にレーザーを当てて彫刻を施すレーザー加工です。

工業は様々な面で自動化が進んでいますが、ガラスの2次加工はすべてを自動化することは難しく、人間の手による加工が必要な職人の世界です。難しい特注品などは1日に100個〜200個しかつくれません。しかし、ここには長い歴史の中で装置・設備・治具などが揃っています。加工に関わる技術が積み重ねられ、引き継がれているため、ほとんどの2次加工を施すことが可能です。

常に技法開発、新しい加工法を導入

ガラスのサンドブラスト加工は2代目の社長が始めました。サンドブラストそのものは既に存在しており、板ガラスを

すりガラスにする装置はあったのですが、食器などに部分的に模様を入れたりする装置を独学で開発しました。昭和30年頃の話です。

最近では、ガラスブロックの中に立体像を浮かび上がらせるレーザー加工機をドイツから導入しました。これはレーザーで局所的に熱ストレスを加えてマイクロクラックを作り出し、その小さな「割れ」の集合体が白く立体像に見える加工です。この方法は、数値情報をコンピュータに入力して加工するNC加工となり、再現したい立体物の数値情報をどのように測定して入力するかにかかっています。この加工はガラス製トロフィーや置物などに活用されています。

そのほかにも切子を応用したものやチタン融着など様々な加工法を開発しています。



「常に新たなことに関心を寄せたり挑戦しないと我々が生きて行く道がないのではないかと思います。どうして?どうして?を繰り返す探究心が大切だと思います。」

終わりのない探究心が創業100周年を迎えた坂本硝子工業(株)を支えています。